

戦略的イノベーション創造プログラム (SIP)

2024年度

研究開発実施報告書

SIP 課題名「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現する
プラットフォームの構築」

研究開発テーマ名「自分らしく生き、自分の意志で決定できる
社会をつくる学びの北海道モデルの構築と展開」

研究開発期間： 2024年4月1日 ～ 2025年3月31日

研究開発責任者	氏名	吉野正則
	所属機関	北海道大学／（株）日立製作所
	部署	社会・地域創発本部
	役職	副理事・本部長・特任教授／シニアプロジェクトマネージャー

研究開発成果等の概要

- ・ **個別テーマ1：「初等中等教育を中心とした『新たな『学び』』の場の構築及び効果検証」**

これまでの3rd Placeに必要な機能・性能や地域における学びに関する現状を明らかにする調査に基づき、岩見沢市に設置する3rd Placeの拠点のコンセプトを策定、岩見沢市と合意した。2025年度1Q（4月-6月）に岩見沢市に3rd Placeの拠点を設置し、多世代による学びあいの場のための施策の検討及び検証を実施する。

- ・ **個別テーマ2：「探求力・主体性・創造性・協調性を高めるコンテンツの開発」**

（株）日本総研との連携により、意思決定プログラムを複数の高等学校の授業に試験導入した。平行して受講者への質的調査を実施しており、将来的に地域・学校で意思決定プログラムを担う人材のためのツール（ワークショップガイド及び対話ガイド）の開発のためのデータ収集・分析を開始した。また、共同研究開発機関である武蔵野美術大学及び北海道教育大学との連携により、次世代の教員がつながり、新しい教育を断続的に生み出していく「リーダー人材育成プログラム」の試行を実施した。同プログラムは試行結果を踏まえて改善され、2025年度からは北海道教育大学で授業化する予定である。このほか、共同研究開発機関である北海道教育大学とスタンフォード大学の連携により、ハートフルネスワークショップのカリキュラム開発を実施した。2025年度からカリキュラムの試行を実施し、2026年度に授業化する計画である。

上記に加え、探求力・主体性・創造性・協調性を高めるコンテンツの社会実装に向けた試行を下記のとおり実施した。

① ハートフルネスワークショップ

2024年10月25日：北海道教育大学岩見沢校（27名参加）

2024年10月28日：北海道教育大学附属札幌中学校（216名参加）

2024年10月30日：日本公衆衛生学会（37名参加＋見学50名程度）

② 創造的思考力を基盤とした基礎的な教育コンテンツ

2024年9月15日-20日：武蔵野美術大学、北海道教育大学（19名参加）

日高小学校、志文小学校、美園小学校、中央小学校（230名参加）

③ 映像、デジタルによる教育コンテンツ

2024年8月24日：NHK札幌放送局（13名参加）

2024年9月21日：北海道大学FMI国際拠点（12名参加）

④ 意思決定ワークショップ

2024 年 7 月 24 日、25 日：立命館慶祥高校（30 名参加）

2024 年 9 月 13 日、26 日：岩見沢緑陵高校（65 名参加）

2024 年 10 月 30 日：クラーク記念国際高校（58 名参加）

・ **個別テーマ 3：「ショーケースの構築」**

北海道 SIP 連絡会議や本研究開発に関わる機関が集う参画機関会議を通じ、自治体との情報共有、連携を深化させてきた。また、岩見沢市内での SIP の推進について、市の幹部や学校関係者との協議の場を複数設定し、実施方法や SIP 終了後の社会実装について具体案を構築してきている。